

6-3 事業報告交流会

(1) 地域別事業報告交流会

公益目的事業について全国の大学・短期大学の関係者に理解と協力を得ることを目的に、九州、関西・中国、関東、北海道・東北の4地域において事業報告交流会を計画し、11月30日に関東地域、12月6日に北海道・東北地域、12月8日に関西・中国四国地域、12月14日に九州地域の4地域で会長、事務局長が出向して実施した。

(2) 実施結果

事業報告交流会には、71大学3短期大学から150名程度の教職員の参加があった。なお、非加盟校は10大学2短期大学で出席者の1割であった。

- ① 交流会の実施結果について、関東を除く3つの地域、91名からアンケートを得ることができた。評価は、「非常に良かった」が42%、「良かった」が54%で、「普通」が4%であった。交流会の感想は、「意識改革が必要だと感じた」、「ガバナンスへの働きかけが大事」、「出席できなかったが、アウトカムの概要だけでも聞けてよかった」、「理解不足の点を認識できた」、「アンケートに協力しているが、全体像がわかった」などと、肯定的に受け止めていた。

- ② 事業内容への意見は、次の通りであった。

*「クラウド化の推進」について、課題を整理し、協会としての結論づけをされたのは有意義であった。クラウド化に対する最新の動きが伺えて有意義であった。クラウドの活用状況、コストを聞きたい、具体的なイメージがあるともっと理解が得られるので事例を集めて欲しい。

*「ICTを活用する授業モデルの研究」は、未知の事柄が多くて大変参考になった。教育改善モデルの分野に文学系がないこと、家政系分野が少ないことの指摘があった。また、複数の科目を統合して教員がチームとして実践的な学びを促す取り組みを推進するために、大学ガバナンスの重要性を指摘、成功事例を探し出して共有すれば、浸透するのではないかと意見があった。

*「情報教育」について、情報教育の今後の在り方とか方向性が見出されるような研修というものが意義深い。人材育成とか教育改善の実態に即した報告が聴けて良かった。

*「産学連携事業」については、情報系以外の分野の実施を望む。その他、情報提供として解説した「教育情報公表の留意点」について基本姿勢に共感が持てた。

- ③ 情報交流会の運営については、積極的にこれからも続けてほしいという意見が多かった。その際、活動報告が盛り沢山で重点を絞るなどの意見もあり、工夫すべき点が指摘された。

(3) 事業の理解と協力を普及するための課題

大学関係者に事業内容の一層の理解促進を図るために、本協会事業の活動状況を毎月加盟大学にメール配信するなどの仕組みを考える必要があり、対応策を理事会に提案して進めることにした。